

自由応募分科会 2

全体趣旨

田中マリア（愛知大学リサーチアシスタント）

「一带一路とアジアインフラ投資銀行は中央アジア政治経済をどう変えるか？-複層的複眼的検討-」

本報告の理論的枠組みにおいて、我々は一带一路（OBOR）構想で生じたアジアインフラ投資銀行（AIIB）を社会対象（social entity）として扱う。この社会対象は、社会プロセスの各レベル（本研究ではグローバル、リージョナル（中央アジア）、ナショナル（中国）、ローカル（新疆ウイグル族自治区）の四つレベルを設定する）で、様々な社会構造（social structures）・社会制度（social institutions）を生成する。したがって、この理論的枠組みを設定した目的は以下の二つにある。第一に、OBOR/AIIB が生成した創発的性質（emergent properties）としての構造・制度が、各レベルの社会秩序をどの程度まで変革させる可能性があるかを評価することにある。第二に、OBOR/AIIB が生成した「グローバル・リージョナル・ナショナル・ローカル」の各システムの外部構造（exostructures）が、各システム間で、互いをいかに助長し、あるいは抑制するかを明らかにすることにある。具体的な報告内容は次の通りである。まず田中マリアは「理論的枠組み」において、中国と中央アジアの関係を中心とする「グローバル・リージョナル・ナショナル・ローカル」のマルチレベル分析を提示する。次に伊藤亜聖は「中国-新興国のネクサスと「一带一路」-カザフスタンとチャイナランドブリッジに注目して」において、2000年代以降の中国-カザフスタンの経済関係を分析し、習近平体制のもとで生じつつある変化を議論する。続いて田中周は「中央アジアにおける経済開発・安全保障のネクサス-新疆のテロ問題を事例として」において、中央アジアに対する中国の経済開発政策と反テロ政策を分析する。最後に田中マリアは各報告の結果に基づき結論を述べる。